

関西支部勉強会レポート

第3回関西支部勉強会

iPS細胞とメディアのはなし

日時 2011年2月18日（金） 18:00～20:00

場所 京都大学 吉田泉殿

ゲスト 標葉 隆馬（京都大学大学院 生命科学研究科 生命文化学分野／日本学術振興会特別研究員）

人数 15名

1. 標葉さんの自己紹介

本当はセミナーの告知に使いたかった自己紹介

趣味と惰眠を貪る小市民。どうやって偉大な小物になるかを考えてます。座右の銘は「志が低いとなんて人生が楽なんだろう」。科学技術にまつわる言説やら動向やら、「科学と社会」とはなんぞや？ってことを考えたりもしています。

2. 科学とマスメディア

会場への問いかけ：

新聞やテレビの科学技術に関する報道ってどう思います？？

会場からのコメント：

「無理にイメージを和らげようとしている？」

「メディアは、鬼の首をとったように言うけど、本当はゾウのしっぽ？？」

「正しいことを伝えてくれない？」

では、その実体はどうなっているの？？

そんなところを分析しています。

関西支部勉強会レポート

3. 再生医療、幹細胞研究の報道

ここからは実際のデータをご紹介します

(1) 再生医療に関する新聞記事について

1998年

ヒト ES 細胞の誕生以降、「再生医療」に関する記事数がものすごく増える。
この年以前は、マウスでの研究は成功していたけれど、「再生医療」に関する記事は無かった。

会場からのコメント：

これは、臓器移植法案が成立した時期だったしりますか？ちょうど社会的にもこんな医療に関心が向いてきた時期だったりするのでは？

2004年

韓国のファン教授によるヒトクローン胚作成成功の報告以降、減少傾向だった「再生医療」に関する記事数が盛り返し始め・・・

2005-2006年

ファン教授による論文偽装が発覚

2007年

ヒト iPS 細胞の出現以降、「再生医療」に関する記事数が倍に増えた。ちなみに、この年より前に、マウスでの研究は成功していた。
→ヒトでの研究じゃないとなかなか注目してもらえない。

(2) 読者アンケートについて

2008年9月 web アンケート実施（アスパラクラブの会員が対象）

iPS 細胞という言葉を知ったことある人は、73.7%

→あくまで、ネットを使う人の中で、だけれど、とても多い。

→マンガにも登場できるぐらい認知度高い。

関西支部勉強会レポート

4. メディアのはなし

科学者業界は、マスメディアとどうかかわればいいのか？

メディアの動向をどうつかんだらいいのか？

↓

そのためには、分析！

切り口1：「再生医療」に関する記事を集めた時に、中心にあるキーワードは？

↓

プレスリリースによる事実報道／政府の審議会の話／産業、応用の話／インフォームドコンセントの話

↓

これらのキーワードの組み合わせは？

時代によってどんな記事が出てくる？

キーワードの間には、どんな関連があるの？

切り口2：「倫理」というキーワードはどう使われている？

↓

審議会の話でよく出てきた。

事件の時は、事件の関連でよく出てきた。

↓

iPS細胞が世の中に出てきた後は、他のキーワードとの関連が薄くなった。

ファン教授の事件がきっかけとなり、さまざまな視点の倫理問題に関する議論が醸成されようとしていた。しかし、iPS細胞の誕生で消えてしまった。

会場からのコメント：

iPS細胞の倫理問題が、メディアや審議会に反映されないのってなぜ？

切り口3：iPS細胞研究に新聞誌面が割かれるようになった今日この頃。その裏では、削られた科学の話題があるはず。そこで見落とされた話ってなんだろう??

↓

乞うご期待！

関西支部勉強会レポート

5. 日本の科学コミュニケーション業界って

欧米の Science Communication 誌

メディア分析の研究が多く掲載されている

⇔

日本の Science Communication 誌 (CoSTEP ジャーナル)

メディア分析の研究はそれほど掲載されていない。

日本の STS 学会の雑誌

メディア分析の研究はそこそこ掲載されている。

日本で「科学者—科学コミュニケーション—メディア」の関係はどうなっているんだろう？

6. 質問タイムで出てきた話題

*新聞記者より

iPS 細胞が出てきた代わりに誌面から減った記事が何か、たしかに気になるね。
iPS 細胞が出てきても残った倫理問題って、消えてしまった訳ではなくて、これから議論されるのでは？

*大学研究員より

欧米だったら、研究者自身がメディア界へ反論や発信をしていたりするの？

→新聞記者

山中先生のような研究者が倫理についても語ってくれたら記事になるのに。

→別の大学関係者

でも、それはジャーナリストの仕事では？

→新聞記者

でも、日本では科学専門の記者がいない。なかなか厳しい。

*広報担当者

プレスリリースなどを頻繁にだして研究内容を発信できる機関とできない機関がある。

関西支部勉強会レポート

*大学職員より

新聞の社説や有識者のコメントが掲載されるところで、研究者自らが発信できたりしないの？

→新聞記者

そういう欄は、一応ある。

でも、事件など「何かが起こった時に」掲載されるのだけれど。

*大学研究員より

なぜに、「山中先生なら掲載」という状況に？

→新聞記者

新聞報道って、基本は“戦争報道”

「日本が勝った！」というのが好きなのかもしれない。

後は、各社が競争し始めるとなかなか止まらない。

*大学 学生より

別の分野を扱ったメディア分析とかあるの？

→ゲスト

あります。

科学コミュニケーション研究会 関西支部有志
第3回勉強会・運営担当 加納 圭・水町 衣里 (京都大学)

(注) 当日の発表内容について詳しく知りたいという方は、標葉さんまで直接お問い合わせ下さい。

↓

現在の連絡先 (2011年4月現在)

標葉 隆馬 (総合研究大学院大学先導科学研究科 助教)

E-mail: shineha_ryuma@soken.ac.jp